

令和元年度第1回経営協議会議事要録

日 時 令和元年6月24日（月） 10時00分

場 所 KKRホテル名古屋 福寿の間

出 席 学内委員5名（欠席なし），学外委員5名（欠席1名） / 会議成立

開会10時00分

開会にあたり，議長（学長）からあいさつがあり，続いて，議長から4月の人事異動により交代のあった学内委員 理事（教育・学生担当）・副学長 野田敦敬氏，理事（総務・財務担当）・副学長 後藤博明氏及び業務担当が変更になった理事（研究・人事担当）・副学長 菅沼教生氏，理事（連携・附属学校担当）・副学長 西淵茂男氏の紹介があり，本人のあいさつがあった。

次いで学外委員からあいさつがあり，今年度交代があった松井圭介委員について議長から紹介があった後，本日出席の委員数が確認され，会議成立が宣言された。

次いで，議長から，本会議の運営に関し，欠席時の委任状の扱いについて説明があり，続いて陪席の監事及び部局長新任者の企画・財務部長 井上敏昭氏の紹介があった。

次いで，総務課長から，配付資料の確認及び会議日程等の説明があった。

前回議事要録の確認

前回会議（平成30年度第4回）の議事要録を確認した。

議題

1. 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

議長から提議され，学長（本学評価委員会委員長）から，6月末日までに文部科学省へ提出することとなっている標記報告書に関し，項目別の状況の各年度計画の進捗状況欄において自己評価した計画の具体状況など記載内容について，資料により説明があり，次いで質疑応答の後，これを承認した。

○学外委員からの質疑 ●大学側の回答

○ 女性研究者率及び女性管理職の向上について，進捗状況欄の自己評価が「Ⅲ」となっているが，「Ⅳ」としなかった理由を教えてください。

● 女性管理職の国の示す基準を大幅に上回っているとの書き方は第2期中期計画の状況である。第3期についても女性管理職率を向上させると計画しているが，横ばいもしくは少し下がっている状況で，特に事務の女性管理職率を必ずしも向上させることができていない状況であったため，次年度に向け改善できるように努力した。本学としてはまだ課題が残っており，本学も努力している姿を見せたいと評価されないため，本学としては「Ⅳ」ではなく，「Ⅲ」とした。

● 補足説明として，この4月の段階では，事務局課長職が12ポストあるが，そのうち4

名が女性課長であり、昨年度より更に増えている状況である。

- 女性管理職率の向上に向け、良いアイデアがあったらお願いしたい。

2. 平成30事業年度決算について

議長から提議され、後藤委員（総務・財務担当理事）から、以下の決算概要の要点について資料により説明があった。また、標記に係る財務諸表等については、本日の審議以降、役員会の承認を経て6月末日までに文部科学省へ提出すること、監査法人及び本学監事による適正処理確認の学長報告がなされていることの説明があった。

- ・ 損益計算書に関し、平成29年度との増減内容の比較とその理由、当期総利益は黒字であったこととその利益の処分案
- ・ 貸借対照表に関し、平成29年度末との増減内容の比較とその理由
- ・ 人件費推移、一般管理費推移、財務指標による状況分析、寄附金の推移、科学研究費・受託研究費等の推移

次いで質疑応答の後、これを承認した。

- 人件費については、退職者の不補充等により目標に近づいているようだが、科学研究費や受託研究費の割合は他の教育大学と比べて本学はどうか。
- 11単科教育大学の中で比較すると、科学研究費の採択率は真ん中あたりである。総合大学は採択率が非常に高いが、単科の教員養成大学は全体的に採択率が低いので採択率向上にむけ頑張らなくてはならないと考える。
- 頑張る余地があるということか。
- 採択率が今年度も落ちてしまったが、採択率を向上させるためいろいろな努力を行っているが、成果に繋がっていないのが現状である。
- 科学研究費は、医療系や理工系の分野がほとんどの割合を占めている。人文系の中で更に教育系は非常に枠自体も厳しい状況であり、その競争の中で本学は頑張らなければならない。
- もう少し上位に行くように頑張ってもらいたい。
- 受託研究は具体的にどういう受託を受けるのか。受託研究は、大学としてもっと知恵を出せば、増える余地はあるのか。そうであれば受託研究採択に向け頑張ったらどうか。
- 受託事業は、文部科学省からの教育プログラム等の開発依頼に対し、大学として取り組むものであるため、収益の増加というより国に貢献することになる。
- 市町や企業からの依頼により研究助成を受けることがある。また、民間の財団からの受託研究もある。大学としては、外部からの受託研究の募集情報を教員に伝達しているが、限られた教員が応募しているだけで採択も厳しいのが現状である。
- 小学校教員は英語に加え、情報教育もあり、どう取り組んだらいいのか、どこまでやったらいいのか現場は悩んでいると聞いているので、教員養成大学として対応することで全国の現職教員や教員希望者も安心して取り組むことができると思うので愛知教育大学に頑張ってもらいたい。
- 昨年度末学内のボイラー室を次世代教育イノベーション棟に改修した。この中のホールをIT、ICTの拠点にし、教員養成大学といえどもSociety5.0に対応した、特に附属学校とつなぎ、遠隔授業を行うような場としたいと思っている。

3. 令和2年度概算要求について

議長から提議され、後藤委員（総務・財務担当理事）から、標記に関し、概算要求に係る関係資料について説明があった後、1) 2019年度から新たに導入された成果を中心とする実績状況に基づく配分、2) 機能強化経費のうち、戦略・重点的取組の進捗状況評価が配分に反映される機能強化の方向性に応じた重点支援分及び基盤的設備等整備分の各概要、3) 施設整備費概算要求事業について、資料により説明があり、次いで質疑応答の後、これを承認した。

- 建物自体の耐震化は済んでいるのか。古い建物は築何年か。
- 一番古い建物は大学が現在の地に移転した際の建物で築50年であり、耐震は済んでいる。アスベストについて、基準は一旦クリアしたが、基準が厳しくなりまた対応しなければならなくなっている状況である。

4. 消費税の引き上げの伴う諸規程の改正について

議長から提議され、後藤委員（総務・財務担当理事）から、10月1日から施行される消費税率引き上げに伴い諸規程に規定されている料金の改正について、資料により説明があり、これを承認した。

報告

1. 平成31年度国立大学法人愛知教育大学年度計画について

学長（評価委員会委員長）から、前回会議（3月27日）において提示した計画について、予定のとおり文部科学省へ提出した旨の説明があり、了承された。

2. 令和元年度会計監査人の選任について

後藤委員（総務・財務担当理事）から、会計監査人候補者選考等委員会が平成30年度から引き続き会計監査人候補者として有限責任あずさ監査法人を選考して学長へ報告し、学長から文部科学大臣に届出を行っていたところ、資料のとおり通知されたことについて、報告があった。

3. 平成30年度資金運用実績について

後藤委員（総務・財務担当理事）から、資料に基づき報告があった。

4. その他

○ 次回（令和元年度第2回）開催日程について

議長から、次回会議は年間計画に沿って10月21日（月）から11月1日（金）までの間に開催する予定であること、及び学外委員への日程照会をおって行うことについて説明があった。また、11月10日（日）に開催する本学70周年記念事業について報告があり、学外委員に対し出席依頼があった。